

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 住之江区

学校名 南港みなみ小学校

学校長名 藤本 哲

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南港みなみ小学校では、第6学年 63名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

各教科の平均正答率は、国語科においては、全国平均には及ばなかったが、市平均と同数であった。算数科においては、市・全国平均を約4～5%上回る結果となった。

各領域ごとに見ると、国語科では、「B書くこと」で市・全国と差があることがわかる。また、無回答率も高い。算数科では、すべての領域において市・全国平均を上回り、無回答率も低くなっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

昨年度より、学力向上支援チーム事業において研究教科を国語科とし、取り組みを進めているところである。「A話すこと・聞くこと」については成果が見られる。しかし、全体的にどの内容においても大阪市・全国の平均より下回っている。特に、「B書くこと」で市・全国と差があることがわかる。また、無回答率も市・全国と比べて高くなっている。

[算数]

算数科においてはどの領域においても市・全国の平均正答率を上回っている。今までの取り組みの成果である。特に「B図形」領域での成果が顕著である。無回答率についても市・全国の平均を大きく下回っている。今年度の結果を受けて、来年度以降も継続的に成果が得られるような取り組みにしていく必要がある。

質問調査より

毎日の朝食の喫食など、生活習慣に関する事項に気になる点は少ない。しかし、平日の1日の平均学習時間を見ると、3時間以上する児童と全くしない児童の割合がともに高い。このことから、学力の二極化が予想できる。

また、「国語の学習は好きですか。」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が低く、今回の結果につながった要因であると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

昨年度に引き続き、児童の課題を受けて国語科を研究教科とし、全教員で研究授業に取り組み、児童の国語科における学力向上に取り組んでいるところである。児童が興味をもって主体的に取り組み、力をつけることのできる授業実践を目指していく。また、毎日の授業の中でも、チームティーチングによるきめ細やかな指導を行うことや、教員の授業力向上によるわかりやすい授業づくりにも継続して学校全体で進めていく。

それと同時に、児童だけでなく保護者に対しても、懇談会や学年だより等で家庭学習やスマートの使い方などの話題に触れ、啓発を進めていくなど家庭との連携を大切にしていきたい。

【 全体の概要 】

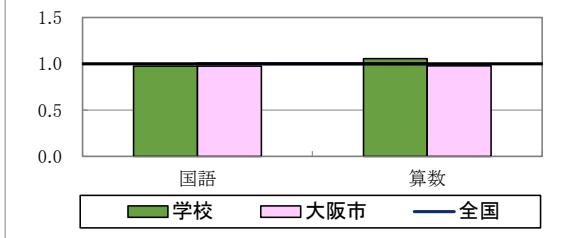
平均正答率(%)

	国語	算数
学校	66	67
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

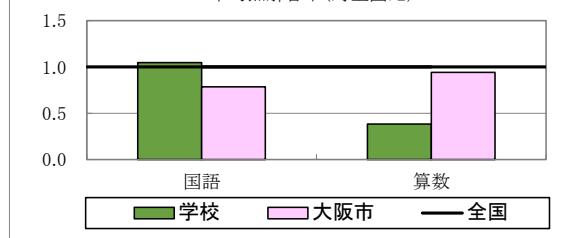
平均無解答率(%)

	国語	算数
学校	4.4	1.3
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



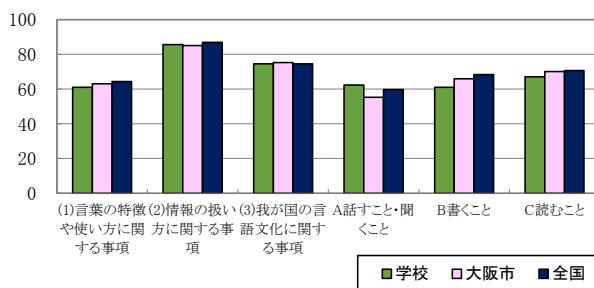
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	61.1	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	85.7	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	74.6	75.3	74.6
A.話すこと・聞くこと	3	62.4	55.3	59.8
B.書くこと	2	61.1	65.9	68.4
C.読むこと	3	67.1	70.1	70.7

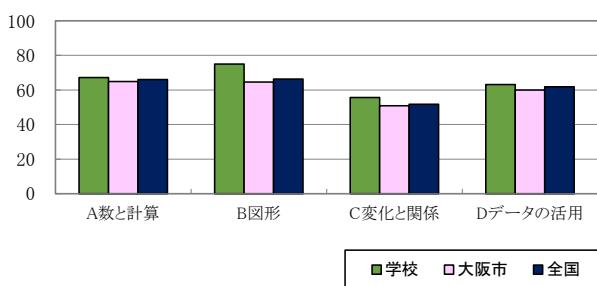
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	67.2	64.8	66.0
B 図形	4	75.0	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	55.6	50.8	51.7
D データの活用	4	63.1	60.0	61.8

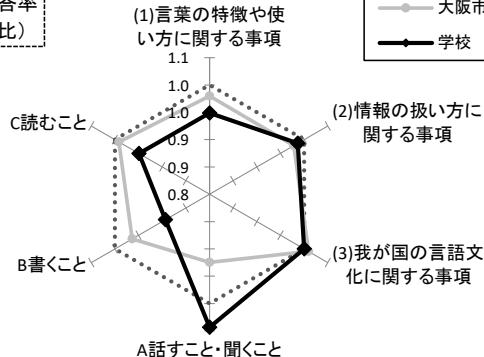
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



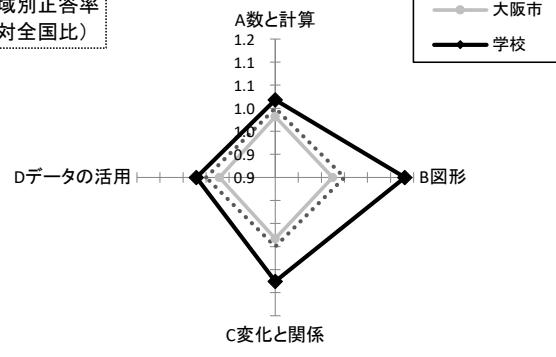
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



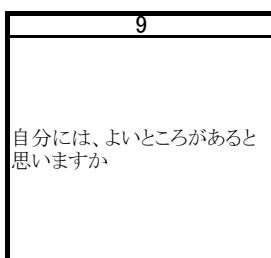
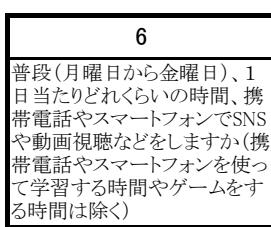
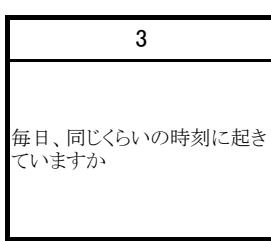
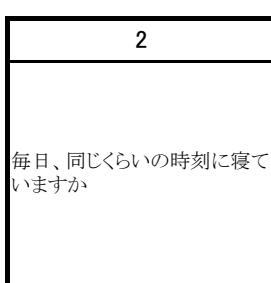
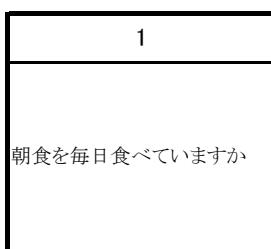
算数
領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

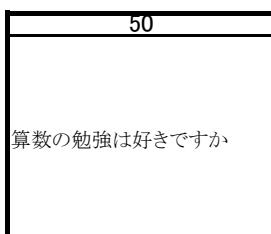
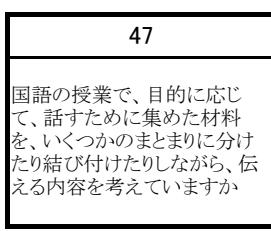
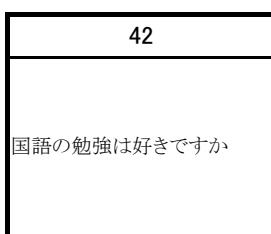
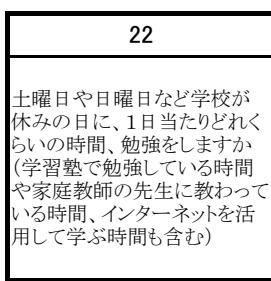
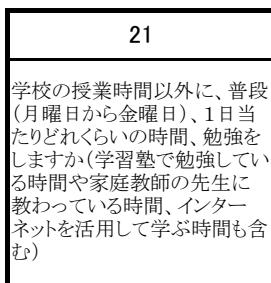
質問番号
質問事項



児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項



学校質問より

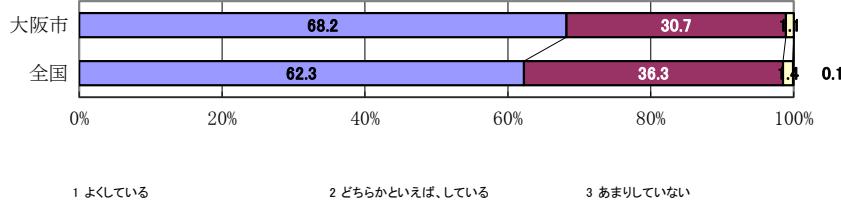
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

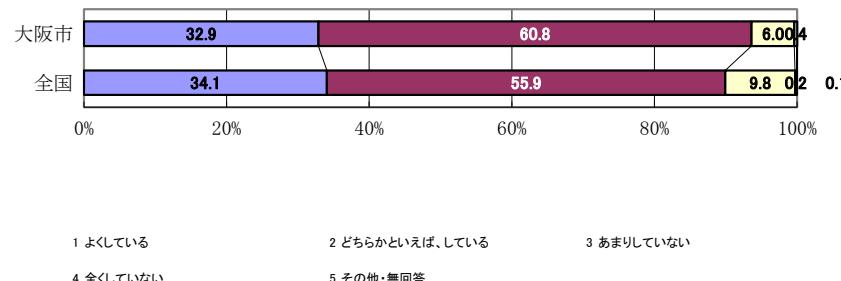
学校 「よくしている」を選択



17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

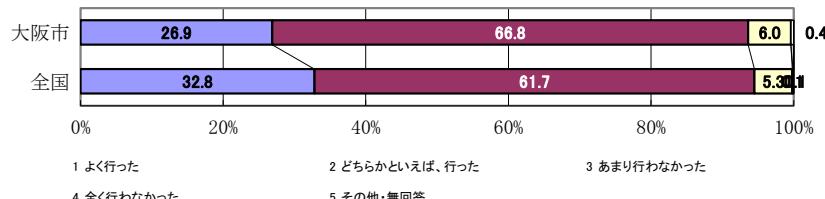
学校 「どちらかといえば、している」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力して合つたりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

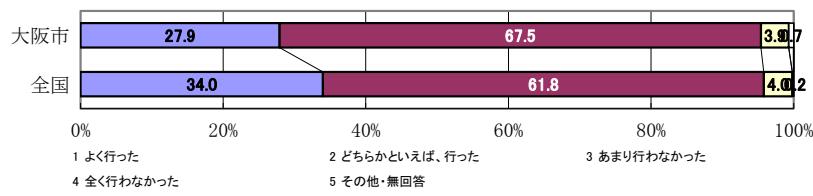
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

